

同志社女子大学

生活科学会通信

No. 63

2022年6月

同志社女子大学
生活科学会

「新しい生活様式」に思うこと

平光 睦子 (生活科学会長)

新型コロナウイルス感染症がわたしたちの暮らしに影を落とすはじめて、三度目の春を迎えました。いまだ終息の目処はたちませんが、二年前には「アフターコロナ」という言葉が散見されたことから、その時点ですでに感染症拡大がわたしたちの生活様式に多大な影響を及ぼすことが予見されていたようです。

これまで取り組まれてきた予防対策は、基本的には人と人との距離を保って接触を避けるというものでした。二〇二〇年五月に厚生労働省が発表した「『新しい生活様式』の実践例」の感染防止の三つの基本では、最初に「身体的距離の確保」があげられ、人との距離をできるだけ2m空けるとされました。二番目に「マスクの着用」、三番目に「手洗い」と続き、直接的な接触だけでなく手指やモノを介した間接的な接触をも避けるよう促されました。「ソーシャル・ディスタンス」という言葉にも象徴されるように、わたしたちの生活様式は人と人との距離を巡って変化を余儀なくされ、様々な局面でコミュニケーションのあり方が再検討されてきました。

そのなかで、距離を保ちつつ人と人が繋がるための新しい方法も急速に浸透しました。リモート(遠隔)方式やヴァーチャル(擬似的)手法は今後も働き方や暮らし方の選択肢のひとつになるでしょう。例えば「グローバリゼーション」や「イ

ンターネット社会」といった以前から次代を指し示してきたキーワードは、既存の枠組みを超えて人やモノが行き来し、世界中のどこでも、誰とも交流できる未来像を描き出してきましたが、今、その実現性が試されているように思います。

コミュニケーションの新しい方法は確かに有効です。とはいえ、その限界に直面することもありました。会うこと、集うことが制限され、独り隔離されることすらあるなかで、たとえ遠隔でコミュニケーションがとれたとしても、直接会って話すこと、触れ合うことには代え難いと実感する場面も少なくありませんでした。その度にわたしたちは、「今」「ここ」に在る自身の身体からは脱がられないことを思い知らされたのです。哲学者、九鬼周造は『偶然性の問題』のなかで「未来的な可能性によって現在のなる偶然性の意味を奔騰させるよりほかはない」と述べ、この場所、この瞬間に起こる偶然の出来事、この場に居合わせた者同士の偶然の出会いに社会の可能性を見出しました。わたしたちは「今」「ここ」を見直すことではじめて、多様で自在な繋がりを手に入れることが出来るのかもしれない。「アフターコロナ」の生活様式に馴染む頃には、誰もが可能性を必然性へと発展させうる社会が見えてくることを期待しています。

生活科学部短信

①学部長・学科主任について

2022年3月をもって、生活科学部長の川崎祐子先生、食物栄養科学科主任の山本寿先生がそれぞれの任を終えられました。

4月より生活科学部長に山本寿先生が、食物栄養科学科主任に杉浦実先生が新しく就任され、人間生活学科学科主任は奥田紫乃先生が昨年度に引き続き任にあたられます。

②第36回管理栄養士国家試験の全国の平均合格率65.1%、全国管理栄養士養成施設(新卒)の平均合格率92.9%に対し、本学管理栄養士専攻新卒の合格率は97.4%(77名受験中75名合格)でした。

岩谷幸春先生を偲ぶ — 孤高を持する人 —

宮本 義信



二〇二二年（令和四年）二月二〇日、岩谷幸春先生は天に召されました。七四年のご生涯でした。この度の訃報によ

り、私も老け込みが加速するとともに、時代の節目を実感します。門外漢の私には、先生の専門分野の功績を称える資格などありません。このため個人的な振り返りの域にとどまることをお許しただけだと思います。

先生は退職されてから、松ヶ崎のご自宅と下鴨の書斎とを自転車で往復され、研究に没頭される毎日でした。出町商店街を北上がった葵橋のたもとで時々お見かけしてはお話したりしていました。昨年十二月の寒い中、「春に気心の知れた先輩後輩を誘って食事しましょう」と笑顔の先生と交わした言葉が最後の言葉となりました。

先生とは一九九〇年入社以来、ずっと一緒にやって来た仲間でした。研究室（流通経済学）も心和館一階の101b、cと隣接し、毎日三時三〇分まで在室されるのを横目に、怖がり私は、いつも一〇分早く帰宅することを思い出します。先生は、授業への姿勢や学生への態度すべてにおいて、私とは真逆の人でした。個別学生の提出物を精読され、学修成果を丹念に評価されました。私に無いものを持っているから、誰よりも信頼できる人でした。先生は、不思議と共感・共鳴できる感性豊かな人でした。口数は少ないが、謙虚で穏やかな人柄と独特の安心感をお持ちでした。こうした先生に無理難題を押し付ける不届きな輩もやはりいたことは方々ありません。逃げ上手な私は雑務に対する断り方を指南させていただきましたが、ある日、「断れた」と子どものような笑顔で繰り返し言われたことを思い出します。

先生からいただいたご著書『現代の米価問題』（楽遊書房、一九九一年）に人生史を語っておられる節があります。「絶えず努力と忍耐をしながら歩み通す。」この言葉を彷彿させる生き様であったと思います。一〇年ほど前、榛名山南麓の高齢者施設でのワークキャンプに参加されたときのことでした。施設長が直感的に、「この人本物だね」と突然ほそとつぶやかれました。体に食い込んだ体験を体で背負い続けながら、そのようにして継続されていくものは本物である、と言わんとされたのだと思います。

先生のゼミには、とびつきり不出来な学生と、とびつきり優秀な学生がいたようです（卒業生のみならず、失礼をお許しください）。横から見ていた印象（あくまでも個人的意見）です。例えば、保健・医療、福祉、教育の現場で活躍する卒業生が多くおられます。教職公務員を含む学外の職能研修で、「流通経済学ゼミの卒業生です」という言葉を何度も耳にしています。まかれた種は育っています。先生は、花が咲くまでの長い道のりを大切に育て、じつと待つ、そんな言葉がよく似合う方でした。先生が遺された数々の尊い実践をいま改めて思い出しています。

謹んで岩谷幸春先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆岩谷幸春先生略歴◆

- 一九四八年一月一日 出生
- 一九八五年三月 京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了（農学博士）
- 一九九〇年四月 同志社女子大学専任講師
- 一九九三年四月 同志社女子大学助教
- 一九九九年四月 同志社女子大学教授
- この間、教務主任・学生主任・人間生活学科主任・入学センター主任・宗教主任を歴任
- 二〇一三年四月 同志社女子大学特別任用教授
- 二〇一八年三月 定年退職
- 二〇一八年四月 同志社女子大学名誉教授
- 二〇二二年二月二〇日 永眠、七十四歳

『同志社女子大学生生活科学』第五十五巻・内容

(二〇二二年発行)

学会では年一回会誌『同志社女子大学生生活科学』を発行しています。二〇二二年度は第五十五巻を発行しました。卒業生の方で購読ご希望の方は五百円（送料込み）をお振込みの上お申し込み下さい。折り返し会誌をお送りします。バックナンバーもごさいいます。また、四十四巻から論文を本学のホームページ上で公開しています。なお、会員の方はどなたでもこの会誌に投稿することができます。投稿規定と原稿の書き方は生活科学会ホームページにてご確認ください。原稿締切りは毎年十月中旬です。

〔原著論文〕

- 大正末から昭和初期の家庭洋裁における子供の簡単服……………藤本 純子
- 大阪府における暑さ対策の現状分析……………岸 真優子・齋藤 朱未
- 台湾における長期介護サービス法施行以降の外国人介護労働者の動向……………宮本 義信
- ファッション・リスク懸念におよぼす装着スタイルの影響……………諸井 克英・松本ほのか
- 状況概念としての化粧品リスク懸念の検討……………諸井 克英・宮武 梨奈
- 京都観光のバリアフリー対策について……………柳本あまね・齋藤 朱未
- 寺社仏閣を事例として —……………
- 葉酸含有量に及ぼす加熱調理操作の影響……………
- ……………村上 恵・橋本幸江・小鳥 愛・岡本千加・栗林由樹・澤田奈津希

〔資料〕

- 『人間椅子』が構築する妖気漂う世界……………
- 現実世界と虚構世界の間に潜む境界の無効化 —……………諸井 克英
- 数のつく食べ物(7) 名前に数字の七がつく食べ物(その1)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(7) 名前に数字の七がつく食べ物(その2)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(7) 名前に数字の七がつく食べ物(その3)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(7) 名前に数字の七がつく食べ物(その4)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(7) 名前に数字の七がつく食べ物(その5)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(8) 名前に数字の八がつく食べ物(その1)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(8) 名前に数字の八がつく食べ物(その2)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(8) 名前に数字の八がつく食べ物(その3)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(8) 名前に数字の八がつく食べ物(その4)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(8) 名前に数字の八がつく食べ物(その5)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(8) 名前に数字の八がつく食べ物(その6)……………森田 潤司
- 数のつく食べ物(8) 名前に数字の八がつく食べ物(その7)……………森田 潤司

御退職の先生からのメッセージ

退職にあたり思うこと

小松 龍史

「定年退職」は、以前の私には現実味のないライフイベントと感じていた。しかし、最後の半年は研究室の片付けなどの退職準備を進めなければならなかっただけでなく、学科や学部の会議における協議内容が、自分が直接かわることのない退職後のテーマが多くなったことが、現実に迫り来る「退職の日」をあえて意識させた。決して心地よいものではないが、これが現実そのものである。やはり、年齢によって、退職日が決められるのは、いかなるものかとも思えるが、節目と前向きに捉えることにしよう。

ところで、本学での一五年間はこれまで我が人生の起承転結の「結」にふさわしい日々であった。私は管理栄養士である。専門職業人としてのスキルや倫理的基礎、さらに栄養学の実践研究の方向性を作ってくれた医療現場での日々を「承」とすると、大学教員へ転職してから本学に着任するまでの日々は、研究、教育養成そして日本栄養士会の役員として管理栄養士制度の発展に努力するも、大学教員としての職場が定着できず、まさに全てのこと

に悩み多き「転」の時代であった。そして大きな「転機」を迎えることができたのが、本学に着任してからのことである。本学では、数多くの大学院生・卒業生とともに栄養学の実践的研究、臨床栄養学研究を行なうことができた。特に臨床現場で活躍する社会人

エイカース）で入居者、家族とともに過ごした日々の暮らしや、目前に迫るタルカット山の夏の新緑、秋の黄金と真っ赤に染め上げるニューイングランド地方の鮮やかさは、ふと訪れる生涯忘れぬ体験です。そのとき高校生と小学生であった二人の子どもたちも、今では社会人として苦戦しながらも一生懸命働いています。突然私事で恐縮なのですが、孫が一歳となり、この四月から、妻と一緒に、通称ばばちゃん保育園の専任保育士（孫守係）に就任し、孫育ての大変さをあらためて実感しながら、現行の児童福祉施策の問題を利用者として痛感しつつ、祈りいたします。

深い友愛に感謝しながら

宮本 義信

よき学生たちに恵まれた三二年間でした。とてもやりがいがあったと心から感謝しています。授業やゼミ、実習や現地調査などその場の印象的な景色やありさまが私の内に在ることを感じるとき、私は同志社といつも一緒に歩いていることを実感します。

とりわけ二〇〇年から一年間の米国北東部コネチカット州ハートフォード郡における在外研究での体験は、想い出深い人生の出来事として、今も私に影響を与えています。そこは、米国プロテスタント・キリスト教一派の会衆派教会の信徒たちが設立した宣教師の派遣団体アメリカン・ボード

カン・ボード（同志社の創設にもかかわった）が誕生（一八一〇年）した地でした。会衆派は、人々の自由、自治、独立の精神を重んじ、拘束、統制、干渉の一切を拒むことから、人道主義的な思想や実践と結びつきながら社会改良や黒人解放の先鋒を切ったキリスト教として知られ、ソーシヤルワーク専門職の開花と家族福祉の発展に大きな影響を与えました。宣教師イライザ・タルカット（神戸女学院の前身ガールズ・スクールを一八七五年に創設）が学んだミス・ポーター・スクール（全寮制の女子高等学校）に隣接する高

大学院生達は現場を離れた私に、常に新しい栄養学実践研究の息吹を与えてくれた。未来を担う学生達の教育養成においては、学部教育と大学院教育の二面からチャレンジできた。学部教育ではリベラル・アーツを中心に大学教育の本質を考えるとできた。専門職業人の知識や技術教育の視点だけを持つていては逆効果である、との思いを強くした。なぜなら管理栄養士には対象者に全人的アプローチが求められることから、人格・教養ともに優れた職業人養成が必要でありリベラル・アーツ教育の充実が求められるのである。大学院教育では管理栄養士養成における我が国のモデルケースになりうる、インターシップ制度を取り入れ

「結」にふさわしい、充実した日々であった。教職員のみならず、卒業生、学部生、大学院生そして同志社女子大学に心から感謝し、活躍・発展を祈りたい。

生活科学会 大会報告

第五十五回同志社女子大学生生活科学会大会が二〇二二年七月一日(水)午後三時から楽真館ラーニングコモンズで小松龍史先生を会長として開催されました。

総会では、二〇二〇年度事業報告および決算報告、二〇二一年度事業計画および予算についての審議が行われました。

続いて、本学生生活科学部食物栄養科学科教授 田中雅彰先生による講演会「疲労の科学」を開催しました。

講演では、脳科学研究の成果に基づく慢性疲労の脳神経モデルの提示、さらには、解明された慢性疲労の神経メカニズムに基づいての慢性疲労の治療戦略を提示され、イミダゾールジペプチド等多くの食品素材が慢性疲労の治療に有望であると話されました。



2021年度生活科学会決算書

(自2021年4月1日～至2022年3月31日)

□経常会計 (単位:円)

	項目	予算	決算
収入	会費	2,832,000	2,817,000
	寄付	0	0
	利息	500	229
	雑収入	129,000	132,000
	研究会運営費	0	0
	見学会所要費	0	0
	収入計	2,961,500	2,949,229
	支出	大会運営費	100,000
研究会運営費		0	0
見学会所要費		0	0
備品費		0	0
印刷費		600,000	694,972
通信費		200,000	147,869
交通費		0	0
文具雑品費		70,000	40,031
アルバイト費		600,000	456,875
雑費		0	0
租税公課		-	4,677
奨学金運営費振替		50,000	50,000
支出計		1,620,000	1,477,948
当年度収支差額	1,341,500	1,471,281	
前年度繰越金	8,175,229	8,175,229	
次年度繰越金	9,516,729	9,646,510	

□奨学金会計

	項目	予算	決算
収入	利息	2,000	549
	寄付	0	0
	奨学金運営費	50,000	50,000
	収入計	52,000	50,549
支出	奨学金	700,000	750,000
	支出計	700,000	750,000
当年度収支差額	△648,000	△699,451	
前年度繰越金	22,352,805	22,352,805	
次年度繰越金	21,704,805	21,653,354	

研究会報告「生活にまつわるお金の話」

京都府金融広報委員会の数内美樹先生に、「税金・社会保障の仕組みや種類」「キャッシュレスの仕組み」など生活にまつわるお金についての講演をしていただきました。半年後社会人になった時に、自分でお金の管理をしていくことに不安を感じていたのでこの講演に参加しました。

私が今回の講演の中で一番印象に残ったことは、「お金は貯めれば、貯めるだけいいというものではありません。自分のライフプランを見直し、どれだけお金を貯めないといけないのか考えた上で、残ったお金を自分のために有意義に使うことが重要です。」という数内先生の言葉です。私たちは、ついお金はできるだけたくさん貯めるべきと考えがちですが、自分のためにお金を適切に使うこともまた大切であると学びました。それによって、人生が豊かになったり、自分にかけてお金(資格を取ったり色々な経験を積んだりする)によって将来さらにお金を稼げることに繋がったりすることが分かりました。今までは、お金や社会の仕組み、将来について不安を持ちつつもそれを勉強しようとはしていませんでしたが、学生という時間がある今だからこそ、自分の将来のライフプランをしっかりと考え、お金や社会の仕組みについて勉強をしていくべきだと思いました。

(二〇二一年度SK卒)



生活科学会運営委員
(2022年度)

(敬称略)

教員	
平光 睦子 (会長)	
川崎 祐子 (副会長)	
土井 幸輝 藤本 純子	
今井 具子 神田 知子	
小切間美保 奥村 仙示	
卒業生	
院生	
在学生【人間生活】	
(4年次)	
(3年次)	
(2年次)	
(1年次)	
在学生【食物科学】	
(4年次)	
(3年次)	
(2年次)	
(1年次)	
在学生【管理栄養】	
(4年次)	
(3年次)	
(2年次)	
(1年次)	
事務局	
尼川佐知子	

生活科学部の新しいスタッフの紹介



奥村 仙示
臨床栄養学研究室



土井 幸輝
ユニバーサルデザイン
研究室

二〇二三年四月一日付で、同志社女子大学生活科学部に着任致しました。奥村仙示(おくむらひさみ)と申します。私は、大阪で生まれ、徳島大学卒業、同大学院修了後、愛知医科大学付属病院で管理栄養士として調理や栄養指導に従事しました。そして、徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床食管理学分野に在籍し、併設の附属病院で、肝疾患の臨床栄養研究を行ってまいりました。また、徳島県は美

味しい農水産物が豊富ですが、全国で糖尿病による死亡全国ワースト1位です。そこで、低カロリーでも満腹・満足な低カロリー密度の食事を作成したいと思い、密度(Quantity)に注目した食事(Diet)という意味のデンシエツト(Densiet)というマニュアルを作成しました。同志社女子大学では、その発想を逆にして、高齢者が無理なく少量でも栄養が摂取できる高

カロリー密度のデンシエツト plus (仮)の研究に取り組みたいと思います。この度、関西に戻る機会を得て、大変嬉しく思います。同志社女子大学に入学された学生の皆様、本校を選んで良かったと思っただけでなく、教員や職員の皆様にご指導いただきながら、教育・研究・運営に尽力したいと思います。何卒宜しくお願い申し上げます。

二〇二三年四月より人間生活学科に着任いたしました土井幸輝(どいこうき)と申します。前職は、神奈川県横須賀市にある文部科学省所管(独)国立特別支援教育総合研究所で、障がいのある幼児児童生徒のための用具・教材等の開発や障がいの有無によらず利用可能な共用品の普及に寄与する研究を推進してきました。具体的には、視覚障がい児者が安心して負担なく活用可能な軽量かつ高強度な白杖の開発研究に取り組み、

現在、実際に視覚障がい児者に日常生活の中でも利用してもらえるようになりました。ユニバーサルデザインの理念に基づいて、商品の実用化研究にも注力してまいりました。具体例を挙げますと、シャープロボットとポデイスープポットのポデイスープのボトル側面とポンプ天面に付された触覚識別表示(凸状のライン)の考案と実

用化に取り組んでまいりました。なお、このポデイスープの触覚識別表示は、日本産業規格化されており、今後更なる普及が期待されており、今更なる普及が期待されております。さらに、特別支援学校や小中学校の全国の現職教員の指導力向上のための研修事業の運営に携わってまいりました。毎年、全国からたくさんの方々が2ヶ月間泊まり込みで研修に参加してくれました。とりわけ、全国の中でも京都府や京都市からは、たくさんの方々が毎年参加してくれましたので、当該領域の京都での人脈を広げる

ことができそうです。こうした研究や教育の経験を基盤として、同志社女子大学生活科学部人間生活学科の教員として、大学の先生方や職員の方々のご指導とご支援を頂きながら同志社女子大学に少しでも貢献できるように、教育・研究・運営に注力していきたいと思っております。今後、生活科学会の会員の皆様とお会いする機会もあると思っております。これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

奨学金のお知らせ
生活科学会では、本学生活科学部に所属する学生・院生に奨学金を支給しています。募集は9月に行います。詳細は同志社女子大学ホームページにてご確認ください。



研究室だより

服飾文化(平光)研究室

服飾文化研究室は新たに16名のゼミ生が加わり新年度を迎えました。

3回生はファッション産業の仕組みや流れを学び、4回生は就職活動と並行して、各々興味をもったテーマで卒業論文に取り組みます。多忙な日々を過ごしていく中で、皆が健康に、そして充実した一年を過ごせるよう、精一杯サポートし共に学んでいきたいと思っています。(助手)

被服学(藤本)研究室

被服学研究室は、4回生12人、3回生16人で新たなスタートを切りました。今年の4回生は、花やカクテルをアイデアソースにしたウエディングドレスや、和と洋を融合させた子供服、光る素材を用いた制服など、各々が興味のあるテーマを掲げ、卒業制作に取り組みんでいます。個性豊かなメンバーで支え合い、卒業論文完成に向けて精一杯頑張ります。(ゼミ生一同)

住居計画(塚田)研究室

本研究室は今年度、新たに16名の3年生を迎え入れ29名(4年生12名、大学院生1名)になりました。これからゼミ生の皆様は、塚

田先生の温かなご指導の下、それぞれの研究・課題や就職活動に取り組まれます。皆様が充実した一年を過ごせるようお手伝いさせていただきます。(助手)

住生活学(奥田)研究室

今年度は14名の3回生を迎え、計26名のゼミ生と共に新学期をスタートしました。4回生は昨年の秋頃から卒業論文のテーマを決め、それぞれの研究に取り組みとしていきます。3回生もグループ調査の課題を決定し、調査の準備に取り掛かっています。皆様が充実した時間を過ごせるよう精一杯サポートしていきたいと思っています。(助手)

環境計画学(齋藤)研究室

今年度の環境計画学研究室は新たに17名のゼミ生が加わり、計20名となりました。3回生は文献調査など、4回生は卒論に向けて、それぞれの研究について取り組んでいます。4月から研究室助手として働きはじめたばかりですが、学生の皆さまが充実した時間を過ごせるよう精一杯サポートしていきたいと思っています。(助手)

都市空間(麻生)研究室

都市空間研究室は新たに3回生3名を迎え、計13名となりました。昨年度のフィールドワークは、保津川・嵐山で自然景観および名勝の保全と活用について、祇園地域では、伝統文化体験と近代遺産について学びました。学生さん方が研究に取り組みやすい環境で、充実した時を過ごせるよう、私もささやかながら努めて参ります。(助手)

社会心理学(諸井)研究室

この春に10名の燕さんたちが「世間」という名の荒波へ。事務助手さん1名とともに現在11名の燕さんたちが「卒論+就職活動」に奮闘中。今年はLAST RUNのため新たな燕さんは飛来せず。(諸井克英)

調理学(村上)研究室

本研究室は食物科学専攻と管理栄養士専攻の学生9人、村上先生、助手の中野さんの11人で活動しています。明るく個性豊かなメンバーの集まる研究室には、いつも賑やかで、笑い声が響き渡っています。厳しくも優しい村上先生と笑顔が素敵な中野さんのご指導の下、学生生活最後の1年を充実した時間にできるように一生懸命頑張ります。(ゼミ生一同)

調理科学(真部)研究室

今年度、調理科学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えました。和食の煮汁と嚙下食、和菓子のテーマに分かれて実験操作の習得や情報収集に取り組みんでいます。現在はなかなか全員揃うことがないですが、互いに助け合いながら実りのある一年間を過ごしてほしいと願っております。全員が充実したゼミ活動を行えるよう、サポートしていきたいと思っています。(助手)

栄養教育学(片井)研究室

新カリキュラムの幕開けとなり、栄養教育学研究室にとって新たなスタートとなりました。未知なる取り組みへのチャレンジと旧カリキュラムとの並走で慌ただしい日々を送っております。落ち着かない社会情勢も相まって、不安等に押し潰されることのないよう、片井先生と同心協力、試行錯誤しながら前を向いて乗り越えていきたいと思っています。(助手)

実践栄養学(小切間)研究室

今年のゼミは、ライフステージ別に分かれて食生活を通じた健康について研究を行っていきます。コロナ禍ではありますが、ゼミ生同士で助け合いながら頑張りたいと思います。学生に寄り添ってくださる小切間先生、困った時に助けてくださる助手の尾崎さん、共同研究先の先生方にご指導頂きながら、実りある1年間になりたいと思います。(ゼミ生一同)

基礎栄養学(鈴木)研究室

二〇二二年度は、ゼミ生(食管9名)、助手の高田さん、鈴木先

生(小崎)研究室

咲き誇る桜や菜の花に、眩い日

差し。目にも鮮やかな季節の訪れとともに、生命倫理学研究室では新たに4年生12名と3年生8名をゼミ生として迎え、それぞれ研究テーマと真剣に向き合って課題をこなしています。学生ならではの斬新な発想や考察を楽しみに、私も陰ながらその学びを応援しつつ自らの学びも深められればと思います。(助手)

ユニバーサルデザイン(土井)研究室

今年度より発足した本研究室は、10名の3年生と共にスタートしました。これまで視覚障がいのある子どものための用具開発や、誰もが使いやすい共用品の研究等をされてきた土井先生と共に、学生一人一人が課題・研究に興味を持って取り組めるよう、微力ながらサポートさせていただきます。(助手)

調理学(村上)研究室

本研究室は食物科学専攻と管理栄養士専攻の学生9人、村上先生、助手の中野さんの11人で活動しています。明るく個性豊かなメンバーの集まる研究室には、いつも賑やかで、笑い声が響き渡っています。厳しくも優しい村上先生と笑顔が素敵な中野さんのご指導の下、学生生活最後の1年を充実した時間にできるように一生懸命頑張ります。(ゼミ生一同)

調理科学(真部)研究室

今年度、調理科学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えました。和食の煮汁と嚙下食、和菓子のテーマに分かれて実験操作の習得や情報収集に取り組みんでいます。現在はなかなか全員揃うことがないですが、互いに助け合いながら実りのある一年間を過ごしてほしいと願っております。全員が充実したゼミ活動を行えるよう、サポートしていきたいと思っています。(助手)

栄養教育学(片井)研究室

新カリキュラムの幕開けとなり、栄養教育学研究室にとって新たなスタートとなりました。未知なる取り組みへのチャレンジと旧カリキュラムとの並走で慌ただしい日々を送っております。落ち着かない社会情勢も相まって、不安等に押し潰されることのないよう、片井先生と同心協力、試行錯誤しながら前を向いて乗り越えていきたいと思っています。(助手)

実践栄養学(小切間)研究室

今年のゼミは、ライフステージ別に分かれて食生活を通じた健康について研究を行っていきます。コロナ禍ではありますが、ゼミ生同士で助け合いながら頑張りたいと思います。学生に寄り添ってくださる小切間先生、困った時に助けてくださる助手の尾崎さん、共同研究先の先生方にご指導頂きながら、実りある1年間になりたいと思います。(ゼミ生一同)

基礎栄養学(鈴木)研究室

二〇二二年度は、ゼミ生(食管9名)、助手の高田さん、鈴木先

生の11名で研究活動をスタートさせています。コロナの影響もあり臨地実習が終わっていないゼミ生も多く、全員が集まらないという不安はありますが、みんなで協力して頑張っていきたいと思いを

給食経営管理学(神田) 研究室

今年度は給食経営管理学研究室に9名のゼミ生が所属することになりました。実習で2年次生の頃から関わってきた学生たちが、もう最終学年を迎えると思うととても感慨深いです。

新人ばかりの4人でのスタートになります。教職員・学生の皆様、何卒宜しくお願い申し上げます。(奥村仙示)

実験や、本研究室のテーマである澱粉糊化についての勉強を行いました。今後は引き続きテーマ決定のための予備実験を進め、実験計画を立てながら研究を進めていきます。ゼミ生がスムーズに研究できるように、助手として精一杯サポートしていきたいと思いを。(助手)

食品機能学(杉浦) 研究室

鈴木先生、高田さんの優しく手厚いご指導をいただきながら、大きく成長できる一年にしたいと思いを。(ゼミ生一同)

生化学(倉橋) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度は本研究室に食管2名のゼミ生を迎えました。ゼミ生は倉橋先生のご指導の下、卒論に向けた予備実験を行いつつ、国試の勉強や就活にも励み、新たな生活に奮闘しています。助手1年目の私自身も毎日慌ただしい日々を過ごしています。まだまだ不慣れなことばかりですが、早く研究室の力になれるよう精進いたします。(助手)

今年度は本研究室に食管2名のゼミ生を迎えました。ゼミ生は倉橋先生のご指導の下、卒論に向けた予備実験を行いつつ、国試の勉強や就活にも励み、新たな生活に奮闘しています。助手1年目の私自身も毎日慌ただしい日々を過ごしています。まだまだ不慣れなことばかりですが、早く研究室の力になれるよう精進いたします。(助手)

公衆衛生学(吉田) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度は本研究室に食管2名のゼミ生を迎えました。ゼミ生は倉橋先生のご指導の下、卒論に向けた予備実験を行いつつ、国試の勉強や就活にも励み、新たな生活に奮闘しています。助手1年目の私自身も毎日慌ただしい日々を過ごしています。まだまだ不慣れなことばかりですが、早く研究室の力になれるよう精進いたします。(助手)

今年度は本研究室に食管2名のゼミ生を迎えました。ゼミ生は倉橋先生のご指導の下、卒論に向けた予備実験を行いつつ、国試の勉強や就活にも励み、新たな生活に奮闘しています。助手1年目の私自身も毎日慌ただしい日々を過ごしています。まだまだ不慣れなことばかりですが、早く研究室の力になれるよう精進いたします。(助手)

今年度は本研究室に食管2名のゼミ生を迎えました。ゼミ生は倉橋先生のご指導の下、卒論に向けた予備実験を行いつつ、国試の勉強や就活にも励み、新たな生活に奮闘しています。助手1年目の私自身も毎日慌ただしい日々を過ごしています。まだまだ不慣れなことばかりですが、早く研究室の力になれるよう精進いたします。(助手)

彼女たちがゼミを通して大きく成長し、学生生活最後の日々が楽しく充実したものになるよう、微力ながら精一杯サポートしていきたいと思いを。(助手)

臨床病態学(田中) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

食品微生物学(川崎) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度、食品微生物学研究室は6名のゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生は2グループに分かれ、川崎先生の熱心なご指導のもと、皆一生懸命にそれぞれのテーマに取り組んでいるようです。学生生活最後の一年で、彼女たちが多くのことを吸収し、さらに大きく成長できるよう、微力ながら精一杯サポートしていきたいと思いを。(助手)

今年度、食品微生物学研究室は6名のゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生は2グループに分かれ、川崎先生の熱心なご指導のもと、皆一生懸命にそれぞれのテーマに取り組んでいるようです。学生生活最後の一年で、彼女たちが多くのことを吸収し、さらに大きく成長できるよう、微力ながら精一杯サポートしていきたいと思いを。(助手)

今年度、食品微生物学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生にとつては、卒業研究に就職活動等で多忙の一年になると思いますが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろんな面で成長していったほしいと思いを。(助手)

公衆栄養学(今井) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

臨床栄養学(奥村) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

公衆栄養学(今井) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。例年どおり三つのグループに分かれて研究を進めて参ります。ゼミ生にとつて、卒業研究・就職活動・国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、充実した一年になるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。

生活科学会第五十六回大会案内

日時 七月二三日(水)午後三時
場所 楽真館〇〇二教室

一、総会

会長挨拶

二〇二一年度事業報告および決算報告

二〇二二年度事業計画案および予算案審議

二、講演会

「セラミックデザイン近代、
日本におけるドイツ陶磁の受容」



長井千春氏(愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科陶磁専攻教授)

現在、私達の食卓で用いられる食器の多くが磁器製品ですが、一七世紀初頭、日本で初めて焼成された磁器は長らく庶民の生活には登場しませんでした。世界屈指の伝統を誇る日本の焼き物の中でも、陶器は一万年以上の歴史を有しますが、磁器が暮らしに欠かせない存在となったのは、そう古い話ではありません。開国後、陶磁器は日本の重要な輸出品目となり、陶磁器産業の近代化の過程でドイツから多大な影響を受け、その製法や意匠は飛躍的な進化を遂げました。その指導的な役割を果たしたのが御雇外国人G・ワグネルでした。本講演では、日本の多様な陶磁器文化の中でも、近代以降発展した陶磁器産業とデザインに焦点を当て、ドイツ磁器産業史との関係を解説します。

〈講師紹介〉

専門分野は陶磁器デザイン、近代陶磁器デザイン史。千葉大学工学部工業意匠学科卒業。千葉大学大学院工学研究科意匠学専攻修了。国立芸術デザイン大学(ドイツ) Burg Giebichenstein Halle に六年間留学し陶磁器デザインを学ぶ。博士(学術)取得。「用 CERAMIC DNA-DESIGN & ART for USE 展(北京韓国文化院・中国 二〇一八)」「REINE FORMSACHE 展(Porzellankonk—Staatliches Museum fuer Porzellan Hohenberg a.d.Eger/Sebドイツ二〇一九)」等、国内外の展覧会へ多数出品。小田陶器株式会社他でテーブルウェアデザインの製品化に携わる。「日本デザイン学会研究奨励賞(二〇〇八)」受賞。

見 学 会

チョコレートの世界へようこそ

内 容 株式会社明治より食育担当の管理栄養士の方をお招きし、カカオの生産やチョコレートの製造、歴史、カカオ農家支援など、知られざるチョコレートの世界をご紹介します。4000年の歴史が育んだおいしさの秘密とは?ご来場の方にはチョコレートの試食も予定しています。

日 時 2022年12月7日(水) 15:00~16:00

場 所 今出川キャンパス教室およびオンライン同時配信(予定)

参加費 無料(要申込)

※なお、オンラインによる配信方法の詳細につきましては、学会ホームページ内の見学会ページ(<https://hlgakkaidwcla.com/見学会/>)に掲載させていただきますのでそちらをご覧ください。

問い合わせ先

同志社女子大学生生活科学会

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

(E-mail) hlgakkai@dwc.doshisha.ac.jp

(TEL) 075-251-4211

(URL) <http://hlgakkaidwcla.com/>



研 究 会

季節のフレッシュリース ワークショップ

内 容 季節のグリーンを束ねてリース作り(5,000円相当)を体験します。

日 時 2022年11月2日(水) 15:00~16:30

場 所 今出川キャンパス教室

講 師 花屋 suuka 秋田和美さん
(京都市上京区下御輿町241)

〈講習会〉

「スモークツリーのリース」ワークショップ, hisoca, 2021. 6

「フィンレイソン展クリスマスリース」ワークショップ, 京都文化博物館, 2021. 12 など
(雑誌等掲載)

「SAVVY」2022年5月号, 2021年3月号

「AERAdot」2019. 12. 4 など

参加費 1,500円

定 員 20名(要申込、申込多数の場合抽選となる可能性があります)

申込期間 2022年10月11日(火)~10月17日(月)

※申込方法はE-mail、ホームページ内申込フォームまたはハガキのみとさせていただきます。必ず、氏名・住所・電話番号・学科学年もしくは卒業年を明記してください。